



三が日が終わったと思ったら、すぐに始業式……例年ならば久しぶりに子供達に会った気がするものなのですが、そんな感慨にふける間もなく緊急事態宣言が発令されました。



2学期、感染予防対策をする中で展開してきた学習活動や数々の教育活動を思い浮かべると、子供達は制限

ある枠の中で、本当によく学び、よく遊び、よく運動したなど実感します。何を企画運営するにも例年とは違うイレギュラーさの連続でしたが、自然の営みはそんな時勢の中でも着実に、八木南小学校の紅白の梅はほころび、中には咲いている花もあり、心がほっと和みます。

保護者の皆様には、毎日の児童の健康管理や感染予防対策への声かけ等にご理解、ご協力をいただいたことはもちろん、懇談会、授業参観、オータムフェスティバル等、様々な学校行事においてもご理解とご参観をいただき、私ども教職員に労いや感謝の言葉までかけていただきました。職員一同、心より感謝申し上げます。



「NIE」  
Newspaper in Education  
＝「教育に新聞を」

さて、12月10日に行った「公開研究会」(研究主題：「豊かな表現」に学び、「豊かな表現」ができる子の育成 ～読書から広がる言葉の世界～ 千葉県NIE実践指定校・学校

図書館司書活用事業モデル校) ですが、教職員のこれまでの研修の成果を、児童の学ぶ姿の中で実感できたことが何よりの喜びでした。「学校だより『大樹』1月号」で述べたことと重なりますが、どの子も自分の「学び」に対して受け身ではなく、しっかりと向き合い、これまでの学習の積み重ね(読書やNIEなど)の上に授業に主体的に臨んでいました。

四年間に亘った本校の国語科研究でしたが、明確なねらいのもとに楽しく深く、学びを進め、肯定感や達成感を、児童も教師も持つことができたことが、学校としての確実な前進となりました。保護者やPTA役員の方のご協力も得て、無事終えられたことを心より感謝申し上げます。

今学期は、3密を避けての校内席書会から始まりました。静寂の中、課題に真剣に向き合う児童の表情はとても引き締まっていました。1月8、9日と実施する校内書初展は、残念ですが保護者参観は設けず、児童だけで互いの作品を鑑賞します。



そして「6年生を送る会」や「卒業式」という、一年間(六年間)の児童の学びをまとめ、成長の足跡を残す大切な行事を控えています。ですが、緊急事態宣言期間という先を見通しにくい状況の中で、内容の制限や工夫、練習期間や練習方法、当日の運営方法等、いくつかのパターンを考えつつ準備を進めていかなければなりません。教育活動実施の判断は、感染状況や国や県、市からの通知、本校の現状や特徴を踏まえることはもちろんですが、何度もお伝えしておりますように、「コロナだからできない」と諦めてばかりでは、子供達の学びの広がりや深まりは生まれませんし、二度とない今のこの時期の児童の学校生活が豊かになりません。“学ぼう、伸びようとする子供達の姿、子供の笑顔を守りたい”という全職員の思いと、「それでもできること」「それだからこそ取り組める方法」を生み出す知恵を大切に、3学期も“えがおとつながりを大切に作る学校”づくりを進めて参ります。

なお、今後予定されている行事や活動についてですが、上に述べたような根拠や思いのもと、お知らせして参りますが、状況によっては変更になることも十分考えられます。引き続き、本校の教育活動へのご理解とご協力を、どうぞよろしくお願い申し上げます。